日本共産党
流山深井後援会

ニュースあすなろ

16年6月15日
第208号
発行責任者
菊池 伍郎
TEL/FAX
7154−0526
（部内資料）

千葉から日本を変えよう！「戦争法（安保法）」廃止必ず

参議院選挙

浅野 ふみ子

参院選　千葉選挙区　候補

第1のチェンジ――税金の集め方を変える

消費税10％増税は「先送り」でなく、きっぱり断念を。富裕層と大企業への優遇税制をやめ、応分の負担を求めます。富裕層への優遇税制をただし、適正な課税を行います。

第2のチェンジ――税金の使い方を変える

国民から集めた大切な税金は、社会保障、子育て、若者への支援など、国民の暮らしと日本の将来に役立つ支出に優先して使うべきです。

第3のチェンジ――働き方を変える

ブラックな働き方をなくし、人間らしく働けるルールを。

消費税にたよらないで財源を確保します

ニュース読者の皆様　今回の参議院選挙は、人間の尊厳を否定する安倍政権を許すのか、立憲主義・民主主義・平和主義を大切にする新しい政治を築くのか、問われています。

私は、これまで県内の多く方からお話を伺ってきました。満州引き揚げの体験を語ってくれた方は、涙ながらに「戦争だけは絶対にダメだ」と。「年金が低くて生活が大変」「家族の介護でくたくた」「サービス残業が年間80万円くらい。彼女と結婚したくてもできない」など。国民はドレイやロボットではなく、人間です。

千葉から初の日本共産党の議席を勝ち取り、命とくらしを守る政治、9条を生かした平和外交へと切り換えるために、全力をあげる決意です。

参議院千葉選挙区候補　浅野ふみ子

「選挙」で変えよう　6月22日公示　7月10日投票日

再稼働やめ　原発から撤退を!!

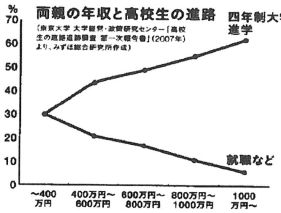
格差と貧困をひろげる“アベノミクス”

日本でも格差はひろがりつづけています。アベノミクスで恩恵をこうむったのは、株価でもうける大株主や円安でうるおう輸出大企業だけ。貧困ライン以下の生活はいまや6人に1人にも達します。8割以上の国民が「貧困は他人事ではない」と感じています。

Q.安倍内閣のもとで、景気の回復を実感していますか

（読売新聞 2016年3月7日）

両親の年収と高校生の進路



（東京大学 大学経営・政策研究センター「高校生の高校進路調査 第一次報告書」（2007年）より、みずほ総合研究所作成）

安倍政権の3年で、
正社員→23万人減
非正規→172万人増
（総務省「労働力調査」、年ベース比較）

資産上位40人は総額16兆円、
平均的な国民の金融資産400万世帯分

非正規（フルタイム）の月給は、
正社員の63.9％
（厚労省調査）

実質賃金は、この3年で
マイナス5％

棄権は危険!!

18～19歳の73.3％が「日本は所得格差が大きすぎる」

Q. 日本の所得格差は大きすぎる？

（NHK調査 2016年1月）

ＪＣＰマガジンから

参議院選挙の投票は
選挙区と比例があります
千葉選挙区は浅野ふみ子
比例は日本共産党
または
椎葉かずゆき
とお書きください

期日前投票の方法

投票日に行かれない方は、流山市内6カ所で**6月23日から7月9日まで**期日前投票ができます。

市役所（**8時30分から20時**）。北部公民館・東部公民館・初石公民館・南流山センター（**9時から20時**）。おおたかの森出張所（**9時から21時**）。入場整理券を持って行きます。紛失等で持ってなくても所定の手続きで投票できます。

参院選比例候補　椎葉かずゆき

いよいよ参院選（7月10日投票）です。

野党と市民による豊かな共同が「自民党・公明党対4野党・市民」という対決構図をつくりだし、いま安倍政権を追いつめています。

この一年あまり、後援会のみなさんとともにがんばってきた一つひとつの取り組みが、「政治は変えられる」という確信となり、私の胸に刻まれています。今度こそ安倍政権を退陣させるため、みなさんと力をあわせ、たたかいぬく決意です。

国民の利益を代表しなくなった自民党・公明党政権と決別し、国民とともに歩む政治を実現できる条件がうまれています。

「憲法の理想を追いもとめ続ける政治に」「誰もが生きていてよかったと思える社会を」と訴えぬく決意です。

比例選挙で9議席獲得、選挙区浅野ふみ子候補の議席獲得――二つの歴史的な勝利を何としても勝ち取り、安倍政権に痛打をあたえようではありませんか。

みなさんのご支援が不可欠です。心からお願いいたします。

ヘッドライト

モハマド・アリが亡くなった。「偉大な魂が逝った」と惜しまれている。ボクシングの世界チャンピオンとして賞賛されている中で、ベトナム戦争への徴兵を拒否。チャンピオンを剥奪されても奪い返し、オリンピックで優勝しても白人と一緒にレストランに入ることを拒否され、黒人差別に反対して闘い続けた。後に国も認めて英雄に。いまアメリカでは大統領にも選ばれる時代になった▼そうした進歩の一方で相変わらず人種差別は続く。自己中心的銃犯罪が続く。自由なアメリカ社会の象徴であり、外から見れば恥部と思われるものをいまだに「自由なアメリカ社会」のシンボルだと思いこんでいるように思われる。その典型がトランプだ▼銃を持つのは個人の権利であり、気に入らなければ銃をぶっ放す。西部劇の時代のルールがいまだに生きているのだ。その大衆の心理は政治を左右する。気に入らない政権を許さないという世界の戦争へのアメリカのかかわり方がそれを示している。どう転ぶかわからないアメリカに追随して世界中の戦争に加わるというのが「戦争法」だ。

危うい仲間